



愛知県稲沢市六角堂
東町一丁目3番地6
社会福祉法人
薫風会



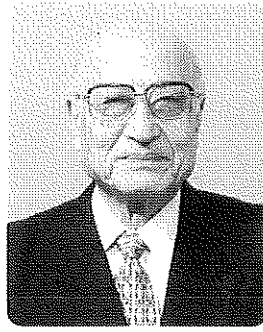
賀正



E900021(01)

7年目の介護保険の 使命を考える

平成十九年度を 迎えるに当たって



社会福祉法人 薫風会
理事長
佐藤 和夫

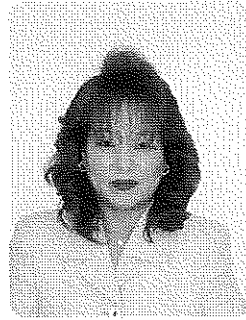
新年明けましておめでとうございます。 「走りながら考える」という介護保険は七年目を迎え政府の骨太方針の運営のもと、行政もサービス提供する事業所も制度改正に振り回されている現状です。医療・介護サービス行政の役割が国から地方へ移管される中で、どのような「給付と負担」の関係を築くかは何よりも市民の選択であり、たゆまない自己努力が地域社会をつくる原動力であります。

二〇一五年の高齢社会像によれば「ベビーブーム世代」が前期高齢者（六五〜七四歳）に到達、その十年後（二〇二五年）には、高齢者がピーク（約三五〇〇万人）を迎えるという社会システムの改革を先読みすることが求められています。 これらの点を踏まえて、平成十九年の薫風会の使命としては、
一、ISO一九〇〇一・二〇〇〇版の認証更新について
薫風会として二〇〇一年十二月に新取得したものは、二〇〇四年に認証更新し、引続いて二〇〇七年に更新時期を迎えることとなります。私達としては絶対的に継続せねばなりません。
二、Pラインバシーマークの認証取得について
PマークJISIQ一五〇〇一の認証を十一月二十日に合格証、十二月五日許諾証を受け取りました。
ISO及びPマークの両方を認証取得した社会福祉法人施設は全国唯一ではないかと存じます。これも職員全体の総力の結集によって得たものであり、私達の法人並びに各事業所の社会的な評価と価値観を得たものと信じております。是非この規格・制度に因應べく努力せねばなりません。また職員は偉大なプライドを持って行動して下さいようお願いします。

三、特別養護老人ホーム「知多」の建設の完成と地域社会密着型小規模多機能型居宅介護施設「知多」の開所について
地域の中核として重要な役割を履行せねばなりません。
四、地域密着型小規模多機能型「第二大和の里」の開所について
稲沢市より平成十八年十月十一日付文書にて開設選定をうけました。施設は本年六月には竣工開設する予定であります。
五、福祉QC活動を継続します。
昨年全国大会において、大和の里は優秀賞・感動賞、第二大和の里は参加賞を頂きました。これも日頃の実績の結果で業務改善のためにも継続いたします。
六、地域に根ざした特色ある施設づくり
私達の施設は三ヶ所となります。そのためには関係機関とのネットワークの確立・強化と複数施設の連携を密にし、利用者の方に対するサービス体系の再編が必要ですし、利用者の皆様の実態と施設目的とが乖離してはいけません。そのためには職員のスキルのレベルアップと社会資源の活用が必要と存じます。
以上列記しましたが、また四月号にて詳細を説明します。

平成十八年度

重点目標クリア!

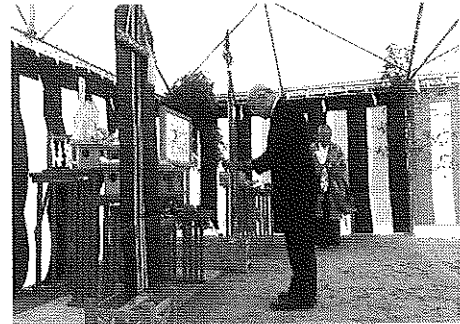


第二大和の里
施設長代理
竹中麻香

新年あけましておめでとうござい
す。本年も皆様には良き年でありま
す。ようお祈りいたします。

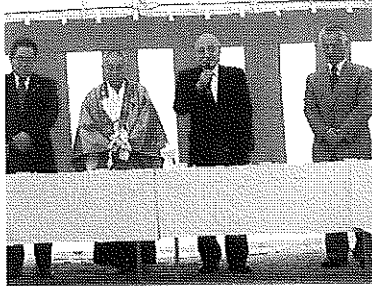


平成十八年度社会福祉法人・薫風会
事業計画の中に
あります重点目
標!特別養護老
人ホーム「知
多」の建設、平
成二十年四月開
所予定、特養九
十床・ショート
ステイ一〇床
(すべてユニツ
ト型)・デイサ
ービス・居宅介



また、同じく知多市岡田において、
平成十九年四月開所予定しております。
地域密着型サービス・小規模多機能型
居宅介護事業所「知多」の起工式が、
平成十八年十一月二十八日(火)に行わ
れました。

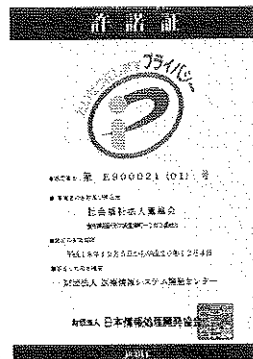
小規模多
機能型居宅
介護事業所
とは、通い
を中心とし
ながら訪問、
短期間の宿
泊などを組
み合わせて



護支援・訪問
介護などの事
業を併設予定
の件について
は、去る平成
十八年十月十
九日(木)十
一時より知多
市旭南におき
まして、起工
式が厳粛に行
われました。

食事、入浴などの介護や支援を提供し
住みなれた地域を離れずに、利用者の
ニーズにきめ細かく対応できるよう、
新設されたサービスです。定員は最大
二十五名の登録制で、通い十五名・泊
り九名、また、随時訪問も行います。
この事業所に併設して、認知症対応
型通所介護事業(定員十二名)も行う
予定です。

また、同じく知多市岡田において、
平成十九年四月開所予定しております。
地域密着型サービス・小規模多機能型
居宅介護事業所「知多」の起工式が、
平成十八年十一月二十八日(火)に行わ
れました。



いたプライ
バシーマー
クの認証取
得について
は、去る平
成十八年三
月二十三日
に申請書を提出。九月八日に財団法人
医療情報システム開発センターより、
二名の審査員がみえ、指摘事項を改善し、
十一月二十日に合格証が届きました。

また、ISO9001第四・五回維
持審査は、十二月五日・六日の両日に
わたり、大和の里・第二大和の里両施
設において無事終了することができま
した。これも偏に皆様方のおかげと感
謝しています。

秋の大運動会

去る平成十八年十月四日、大里東みどり保育園児と一緒に運動会が行われました。

その日の天気は生憎の雨で、一階食堂にて行われました。紅・白それぞれの組に分かれ、ファミリーの皆さんと園児の皆さんが協力して様々な競技で得点を競い合いました。

職員と園児が協力して行われる競技では、「みんなでお引越し」という競技を行いました。ヨーイドン！でファミリーと園児が協力してバケツリレー方式でいろいろな荷物を運びます。「おじいちゃん早く」といった声がたくさん聞こえてきました。荷物を運んでいる間、ファミリーはみんなとてもいい笑顔



で競技に参加されていました。

次に行われた園児の皆さんによるお遊戯ではカラフルなポンポンを手に組み立て体操を披露されました。

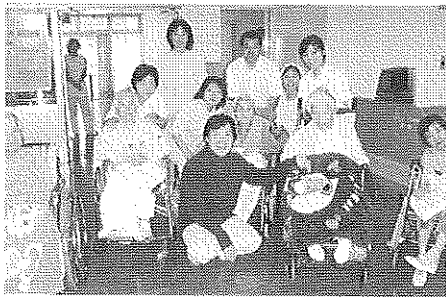
園児の皆さんがポーズをとられるたびに、ファミリーは盛大な拍手を送って見えました。職員による歌と踊りが披露されました。職員が動物に仮装したり、いろいろなコスチュームに身をつつみ元気に踊りました。食堂内は、ファミリーと園児の拍手と笑いの声でいっぱいになりました。今回の運動会は雨のため食堂で行われ、最初は暗い雰囲気でしたが、競技が行われるにつれて次第に笑顔がいっぱいになりました。大里東みどり保育園の皆様本当にありがとうございました。



癒しのミニコンサート

九月二十日、元X JAPANのToshiiさんが来訪され、ファミリーやショートステイ及びデイサービス利用者様、約八〇名の前で弾き語りを聴かせて下さいました。

開始直後のToshiiさんの自己紹介では、「何だかテレビ等で歌っていた有名な人らしいぞ。」といったファミリーの声がありました。職員はX JAPAN時代の彼の活躍を知っていたので少々興奮がみえました。ギターの音が鳴り彼の歌声が流れたとたん会場の空気は一変しました。まるで初秋の草原にでもいるかのような気持ちになりました。まさに癒しのミニコンサートでした。なかには、感動されたファミリーもみえました。心洗われるひとときを楽しんで頂けたと思います。



さざんかクラブ*

おやつ作り

十月三十日のさざんかクラブにて、おやつ作りを行いました。メニューはハロウィンにちなみ、パンプキンと生クリームのカンドイツチです。食パンにマーガリンを塗る係、ホットプレートで焼く係、焼き上ったパンにパンプキンと生クリームを乗せはさむ係と、流れ作業で手際よく出来上がっていきます。おいしそうな匂いが部屋中に漂い食欲をそそります。口腔体操、隣組体操、歌などを楽しまれた後、温かいお茶と一緒に、出来たてのサンドイツチをいただきました。ほっぺが落ちそうなほどおいしい出来ばえに皆さん大満足。クリームが飛び出て口の周りについた顔を見ながら大爆笑する光景もみられ、とても和やかな雰囲気となりました。次は何を作るの?と早くも楽しみにされています。



ファミリー一泊旅行

去る十一月十四日・十五日に、毎年恒例の一泊旅行へ出かけました。今年は、新しくなった名古屋駅と、昔ながらの街並みが残る大須観音をファミリーと一緒に散策しました。

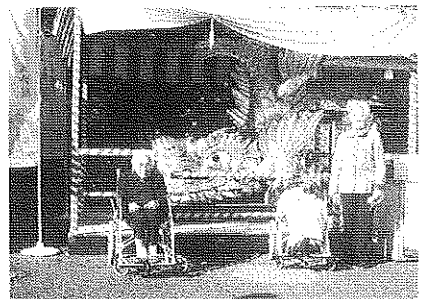
まず最初の目的地は、JR高島屋です。車内からみえる外の景色も昔とは全然違うと、興味津々な様子でした。到着後、十三階のレストランで昼食です。いつもと違う雰囲気、少し緊張した面持ちでハンバーガーランチを頂きました。その後、高島屋内を散策です。地下の食料品売場にて昔からある老舗のお菓子を購入したり、洋服をみたりと、楽しめました。

次に大須観音へ向かいました。まず観音様にお参りです。皆さん真剣に手を合わせられ、「ありがた」とおっしゃつ



てみえました。

その後の散策では、昔ながらの商店街を「懐かしいね」などと会話を弾ませながら様々な店を覗きました。そしてまだ名残りおしさを残しながら、宿泊先の「アイリス愛知」へ向かいました。ホテルでは、十二階で夕食を頂き、その後はファミリーと職員一人ずつで部屋に分かれ、一晚を過ごしました。部屋では話も弾み、ファミリーとの仲が一段と深まったと思います。



二日目は、名古屋城へ行きました。少し肌寒かったものの、木々が紅葉しており、又菊花大会も開催されており「秋」を感じる事ができました。一泊二日という短い時間でしたが、普段とは違うファミリーの表情がたくさんみられ、楽しんで頂けたのではないかと思います。また来年も旅行に出掛けられるよう、元気に過ごして頂きたいです。

異国の地で得たもの

第二大和の里 介護士

山崎 あゆみ

去る九月二十八日、十月五日、高齢者介護視察研修へと行かせて頂きました。行き先は、永世中立国として有名なスイスと、福祉の先進地域である、北欧にあるフィンランドでした。

学生の頃より、海外の福祉について興味があり、機会があれば、現地に行き、自分の目で現状を見てみたいと思っていました。特に北欧地域には一度行ってみたいと思っていたので、この機会を逃したくありませんでした。

スイスでは、日本でいう特別養護老人ホームとケアハウスが一緒になったような施設を2か所訪問しました。完全個室であり、居室には以前に使っていた家具を持ち込み、建物内には売店や喫茶コーナー、更に美容院まであり、外観は老人福祉施設とは思わせられないような美しいものでした。

スイスと日本では制度的なものに、似たような部分があります。日本では介護度を7段階に分けていますが、スイスでは1から8までの8段階に分け



ないかとのことでした。看取り介護はほぼ一〇〇%の確率で実施しており、職員には看取り介護の為に必要な技術を取得させる為の訓練も行っているとのことでした。

フィンランドでは、グループホームやデイサービスセンター、デイケアも訪問しました。デイサービスやデイケアで行っていることは、日本と大きな違いはありません。また、デイケアの一種になると思うのですが、町医者のようなクリニックで少人数定員でリハビリを行っている所も訪問しました。少人数である為、とても効果があるように見えました。職員の方によれば、

が最軽度、8が最重度)、介護度に応じたサービスを提供しています。また、近年日本でも話題になっていきます

が、将来的には重度の方のみ入所となってくるのでは

「幸か不幸か、順番待ちの状態が続いているんです。」とのことでした。グループホームで日本と違うところは、部屋数が多いというところ。日中はそれぞれ居室にて臥床していることが多く、入所者の方の顔も数人見たのみでした。

二つの国を訪問し、強く感じたことは、生活の仕方が日本と大きく違っているということ。日本人は時間を気にしてとても忙しく動いていますが、ヨーロッパ人は逆で、とてもゆったり生活しています。それが入所者の生活スタイルにも、また職員にも現れており、走る職員は一人もいませんでした。

制度等の知識を学ぶことも大切だとは思いますが、訪問する国の文化を学ぶことも同じ位大切なことではないかと、今回の研修を通じて感じました。



秋の大運動会 第二大和の里

去る十月十二日に、晴天の秋空の下、恒例の秋の大運動会が、千代田保育園児参加により開催されました。運動会はファミリー代
表の元気な宣誓
に始まり、続い



て園児の菓子取り競争、鼓笛演奏では、そのかわいらしさにファミリーの皆様も笑顔で見入っていました。その後、全員参加



の玉入れ、職員による綱引きで盛り上がりました。笑顔あふれる運動会、結果は、紅組の勝利で終わりました。



日帰り旅行

名古屋港水族館

十月十日、雨の為急遽なばな
の里から変更し、名古屋港水族館へファミリー十名職員十名で日帰り旅行を行いました。バスに乗り込むとバスの窓から景色をながめなが



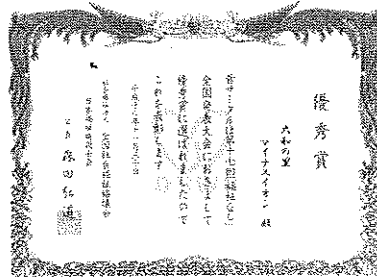
ら話をされ、自己紹介や歌などのレクを楽しまれました。名古屋港へ到着し、昼食時となりレストランへ。各自思い思いの注文をし、普段口にされない料理に皆、これ美味しい“と楽しく会話されながら食べて見えました。食事後はイルカのショーを見学し、あいにくの雨に加え、冷たい風が吹く中でも、イルカの動き一つ一つに“可愛い”と目を細め喜ばれていました。

その後は各自行動し、魚やペンギンを見たり、お土産を買うなどして過ごされました。
楽しい時間はあっという間に過ぎ、帰りのバスでは、もつとゆつくり見えた“との声も聞こえました。短い時間ながらもそれぞれ楽しめた様子で帰設となりました。
大きな事故等なく、無事に過ごされ心残る一日となりました。

福祉QC発表大会

去る十一月二十九・三十日と、「福祉QC全国大会」に参加し、優秀賞を頂きましたので紹介させていただきます。

取り組んだ内容は、「尊厳ある排泄ケアを目指す。プライバシー保護の追求です。ファミリーに快適な生活を送って頂く



ために、また、排泄ケアを通じて苦痛や不快感を与えてしまうことのないよう職員の意識改革・統一をしていくことを目標に取り組みました。目標の設定として、紙オムツ外への外漏れ回数の減少。一階の方を対象に、個々に合ったオムツの選択を行い、日中の排泄カートの廃止。排泄介助のさりげないケア、声かけの統一を図る。の三点を目標としました。そして、これらの目標に対し要因の検証を行い、対策立案

を決定しました。対策立案として、個々の排泄パターンに合わせ、適時誘導、適時交換を行う。個々の尿量を測定、尿量に合った吸収量のオムツの選定を行う。介護士が統一したケア、スキンケアを行えるようにする。ファミリーの心理面を考え、オムツ交換の台車をなくす。以上の点について計画、改善していくことになりました。

まず、個々の排泄パターン、尿量を把握するために、尿量測定を行いました。そして、そのデータをもとに、個々の尿量、肌の状態に適したオムツの選定を行い使用。又、個々のパターンに合った時間にオムツ交換を行いました。

次に、介護士全員が同じ方法で統一したオムツ交換、スキンケアを行えるよう、施設に排泄ケアアドバイザーを招き、オムツの当て方のロールプレイングや、スキンケアの方法の講習会を行いました。三つ目として、一階のファミリーの日中のオムツ交換時、排泄カートの使用を廃止しました。以上の三点を実施し、次のような効果を得ることができました。

①適切なオムツを使用することで、介護を受けられる側、提供する側の双方

の負担が軽くなった。

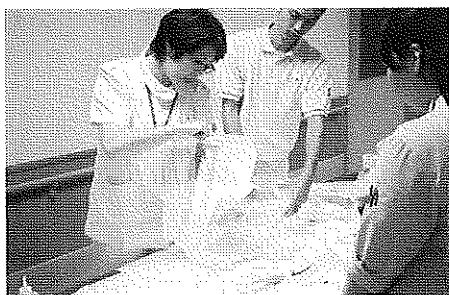
②トイレへの誘導が業務としてではなく、どのタイミングがよいのかを判断する際の誘導のチェックポイントの再確認ができた。

③介護士のケアを客観視することで、気付きが深まり、改善していこうという士気が高まった。

④排泄の自立に向けて、ファミリーの積極的な参加が得られた。

以上の四点の効果を定めることができました。排泄の支援は、生活全般の支援にもつながります。今後も尊厳ある排泄介助を行えるよう、どのタイミングで、どのスタッフが、どんな声かけをして排泄介助を行っていくかの課題です。

これからもファミリーに喜んで頂ける排泄介助が提供できるような活動を続けていきたいです。



ヘルパー室より

平成十八年四月の介護保険制度の改正に伴い、訪問介護サービスとの質の確保向上の面では、特定事業所加算の事業所として、愛知県より指定を受けました。

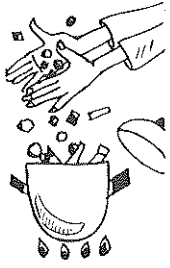


加算の内容は、

体制要件：計画的な研修の実施等、
人材要件：介護福祉士の割合等、

この一つの算定要件に適合していると
の事で、特定事業所加算(Ⅱ)の認定
を受け、利用料に10%の加算をさせて
頂いています。今まで以上に利用者様
に満足していただけるように、現在十
一人のメンバーで頑張っております。

ヘルパー室で、話題にあがる一つに
生活援助の中の調理があります。利用
者宅の冷蔵庫内の食材を使って、ヘル
パーが献立を考え調理するケースが多々
あり、同じ食材か
らどんな料理がで
きるかという勉強
会を開いたとこ
ろ、いろいろな献



立の他に利用者様の咀嚼やく・嚥下機能に
応じた食事形態にまで発展：いろ
いろな意見が出され良い勉強会になり
ました。

今までに印象に残ったケースに、終
末期を自宅でご迎えられた利用者様が
おられ、三度の食事作りと食事介助・
排泄介助等の依頼がありました。嚥下
機能の低下に伴い、調理方法も「軟ら
か食」から「トロミ食」へ徐々に移行。
夏の水分補給にお茶寒天の作り方を栄
養士から習い、それを元にスポーツド
リンクに：。最期は粉末のクリニミ
ルをゼリー状にして食事として提供し
た事もありました。

最近では重度の方への援助が少なくな
りましたが、この様な勉強会は続けて
行きたいと思っております。

ボウリング大会

優勝・二位の
栄光に輝く

平成十八年十一月二十五日(土)に、
愛知県老人福祉施設協議会主催のボウ
リング大会が開催され薫風会から二チ
ームが参加しました。参加チームは十
三組で一組三名のチーム戦(二ゲーム
のトータルピン)で競い合いました。
大和エンジェルスの二チーム全員が「今



方向に進み、会員の頑張りもあり見事、
優秀な成績を残すことが出来ました。結
果は【優勝】大和エンジェルスⅠ(竹中施設
長代理：今井・西川)【二位】大和エンジェル
スⅡ(佐々木・小島・森本・入山)。個人賞
は惜しくもピン差で入賞する事はできま
せんでした。今年の結果を胸に、次回も連
続優勝できる様に、練習に励んでいきたく
と思っております。

大和の里・第二大和の里職員の皆さん！
私達と一緒にボウリ
ングで汗を流しません
か。最近では、ダイエツト
にボウリングが勧めら
れています。私達のス
タイルを見て下さい！
入団をお待ちして
います。



年も優勝目指して頑
張ろう！」という意
気込みで臨みまし
た。しかし、いざゲ
ームが始まると緊張
からか、練習の時と
は違い序盤は意外に
も苦戦、投げ続ける
間にその緊張が良い

「稲沢市の 高齢化と介護」

高齢化を示す指標として用いられるのが、老年人口比率である。これは、六十五歳以上の人口数が総人口に占める割合を示したものである。

全世界で二〇〇五年現在で七・四％、二〇五〇年には十六・一％まで上昇すると予測されている。

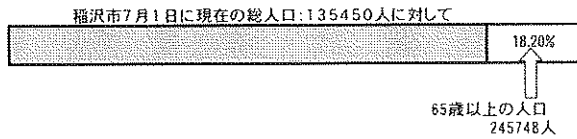
わが国は、一九七〇年に七％を超え、高齢化社会となり、一九九四年には十四％を超え、高齢社会に突入した。二〇二五年には二八・七％、二〇五〇年には三五・九％となり、二〇二〇年になる前に二十五％を超え、四人に一人が六十五歳以上と言われている。わが国の高齢化は、世界にも例を見ない速度で進行している。

稲沢市でも、二〇〇六年七月で、六十五歳以上の人口は二四七四八人で、老年人口比率は十八・二％となっている。(図1参照)

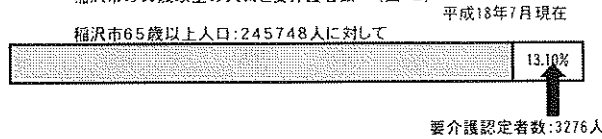
六十五歳以上で、要介護認定者が三二七六人(要介護者二九三二人、要支援者三四四人)となっている。(図2

参照) 七・五人に一人が介護を必要としている。今後、要介護者を抱える世帯は、現在より更に増える。特にひとり暮らし世帯、高齢者夫婦のみの世帯が著しく増加し、家庭内介護力の低下が予測される。介護をどこで受けるのかと同時に、誰からどのような介護を受けるのが重要となり誰もが無関係、無関心ではいられない。ごく身近な事として捉えなければならぬ時が来ている。

稲沢市の老年人口比率 平成18年7月1日現在 (図1)

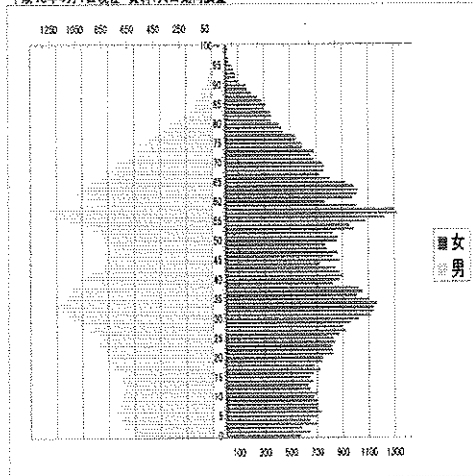


稲沢市の65歳以上の人口と要介護者数 (図2)

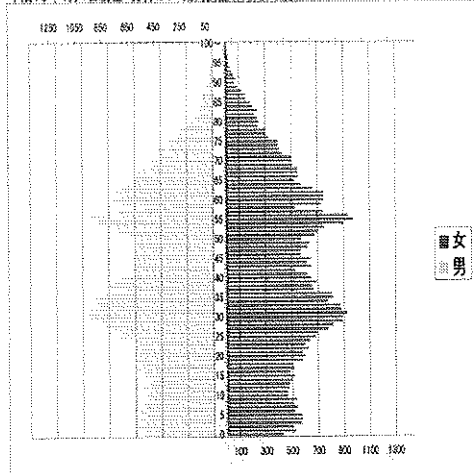


稲沢市の人口ピラミット(合併前後の比較)

平成18年4月1日現在 資料:人口動向調査



平成16年4月1日現在 資料:人口動向調査(合併前年度)



医務室だより

誤嚥を防ぐための

食事姿勢と介助の仕方

私たちが物を食べるときは
かむ↓小さな塊に丸める↓飲みこむ
という手順をふんでいます。食べ物
うまく飲みこむためには姿勢が大切で
す。

今回は、食事姿勢と介助の仕方につ
いて取りあげます。

一、前かがみの姿勢がポイント

私たちがふだん食
事をしている時、どん
な姿勢をとっているでし
ようか。誰もが前かがみの姿勢になっ
ているはずですよ。というのには、食べ物
をうまく飲みこもうとすれば、必然的
に前かがみの姿勢をとらざるをえない
からです。試しに、上を向いたままや
寝たままの姿勢で、食事をしてみて下
さい。食べ物や飲み物が非常に飲みこ



みにくいばかりか、何らかの拍子に気
道に入りこんで、むせてしまうことが
わかると思います。
*誤嚥（ごえん）：食べ物や唾液など
が誤って気道に入りこむこと

二、食事介助のポイント

◎前かがみの姿勢を保つ

◎介護者の位置

横にすわり同じ目線になって介助
するのがよい。

このとき、喉頭の挙上（のど
ど仏が上にあがる）
を確認しながら
行うとよい。

◎箸やスプーンの扱い方

自分が食事
するときに
同じように下
から持つていくようにす
る。

麻痺のある場合健側
へ運ぶ。



☆介護者が立ったまま食
事を介助しているのを



よく見かけますが、上から介助される
と、要介護者も上を向かざるをえず、
むせたり誤嚥を起しやすくなります。

また、リクライニング車椅子やギヤ
ジベッドでは、できるだけ、上体を起
こすように心がけることが大切です。

上体が起きていても、頭部が後方に傾
いていると、誤嚥の危険性が高まりま
す。このような場合は、頭部にクッシ
ョン等をするか、片手で支えるなどし
て、誤嚥しにくい体位を整える必要が
あります。

また、かかどがしっかりと床に着く（車
椅子の場合は、フットレストにしまか
り足底が着く）ことや、テーブルが高
すぎないことも、安定した座位をとる
ためには大切です。

誤嚥を防ぐことは、高齢者ケアのな
かでも重要な位置を占めています。高
齢者は誤嚥することにより、肺炎を引
き起こしやすく、それが致命傷となる
ことが少なくないからです。

これらのことを念頭におき、食事介
助のスキルアップを目指しましょう。



新年あけましておめでとうございます。

七草粥の豆知識

みなさんは七草粥の七草すべて言えますか？

「セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ」子ども頃に一生懸命覚えた春の七草の名前です。ゴギョウはハコグサ、ハコベラはハコベ、スズナはカブ、スズシロはダイコンのこと、この七草をお粥にして一月七日に食べる七草粥の習慣は江戸時代に広まったそうです。



七草の種類は時代や土地によって異なり、七草がもっと多くなったり少ない場合もあったそうです。いつの時代もどんな土地でも年頭に当たって豊年を祈願する気持ちに変わりありません。

七草粥の知恵

ところで、なぜ七草粥なのでしょう。七草は、早春にいち早く芽吹くことから邪気を払うと言われました。そこで、無病息災を祈って七草粥を食べたのです。古くはまな板の上で、草をトントン叩いて刻むその回数も決められていたとか、こんなおまじないのような食べ方も素敵ですが、実はこの七草粥、とても理に適った習慣です。七草はいわば日本のハーブ、そのハーブを胃腸に負担がかからないお粥で食べようというのですから、正月疲れが出はじめた胃腸の回復にはちょうどよい食べ物です。また、とろりと仕上げたお粥は、少し濃い味のおせち料理がつづいたあとで、とても新鮮な味わいが楽しめると思います。いずれの七草も緑の草ですから、ビタミンがたっぷり含まれています。



お正月の基礎

・おせち

一年に五回ある節句の供え物の野菜で作った煮しめが、正月に限られるようになり、現在のような形に発展しました。一ノ重は口取り、二ノ重は焼き物、三ノ重は煮物、四ノ重は酢の物を入れるとされています。

・お屠蘇

新年を祝うもので、肉桂、山椒、桔梗、防風など7種類の生薬を配合した屠蘇散を酒、みりんに浸して作ります。

・祝い箸

お正月など晴れの日には両端が細くなっている白木の箸を使います。これには一方を自分、もう一方に神様が宿るといふ意味がこめられています。箸袋に名前を書くのは、神様に守って頂けるようお願いをこめたものです。

今年もどうぞよろしくお願いたします。

※御利用者様の顔写真は、すべてご本人の同意をいただいております。